

考古学は、文字が使用される以前の歴史を主に扱う学問で、古い時代から土器を使用

していない旧石器時代、表面に縄目模様を付け焼いた土器を使用した縄文時代、米作りを行った弥生時代、大きな高塚と呼ばれる古墳をたくさん造った古墳時代、奈良や京都に都が置かれた奈良・平安時代等に区分され、まとめて古代と呼ばれています。

茂原市で一番古い時代に人が住み始めたのは、今から3万～1万2千年前に古富士山などが噴火を繰り返していた旧石器時代の頃です。下総台地の南端に当たる千葉市と接する市北部にある桂遺跡群では、赤土と呼ばれる火山灰が堆積した中から当時の人々が製作した石器（槍先）を造るための石材を割った破片が発見されています。この時代は最終氷期と呼ばれる寒

冷期で、最寒冷期の2万～1万8千年前頃には、年平均気温が今より7・8度も低く、海面は130mも低く、東京湾や九十九里浜は陸地化し、現在より数十kmも沖合に海岸線がありました。今の北海道並みの冷涼な気候で、亜寒帯性のまばらな森林と原野が荒涼と続いていました。

北海道はシベリアと地続きで、大型の哺乳類である野牛やナウマンゾウ、オオツノシカなどを追って、大陸から人々が日本列島へと渡ってきました。当時は動物を追ってキャンプをしながら狩猟生活を営んでいたようで、人が暮らしていた痕跡はなかなか見つかっていません。1万5千年前くらいになると気候温暖化になり、徐々に海面が上昇し、植物も温帯から亜熱帯性の森林へと変化していきま

す。縄文時代に始めて使用された土器は、放射性同位体元素（14C）年代測定法によれば、1万2千7百年前との測定結果がでたことから、世界最古と言われているですが、定説にはなっていません。

縄文時代に茂原市で人が住んだ痕跡があるのは、やはり市北部の桂遺跡群で、早期（7千年前）の土器が出土し、屋外の大型炉や狩猟用の陥し穴が発見されています。前期（6千年前）には温暖化が進み、年平均気温で今より2度ほど高く、4～5mくらい海水面が高く、九十九里平野は海面下に没していました。台

地下の遠浅の海岸ではたくさんのアサリやダンベイキサゴ（当地方ではナガラミとも言います）などが採れ、貴重な食料となり、中期（4千5百～3千年前）以降、海岸沿いには多くの貝塚が造られました。この貝塚というのは、今でいえばゴミ捨て場なのですが、当時の人々が何を食べていたかが分かる貴重な情報源で、貝殻から貝の種類、魚類の骨や動物の骨からも現生種と比較してどんな種類、どんな気候であったかが分かります。茂原市内には渋谷貝塚、石神貝塚、下太田貝塚などあります。

茂原市文化財審議会委員

麻生 正信

文芸コーナー

タンポポ

金網あき子

風の背中に乗って
ここに来てしまったタンポポ
コンクリートの僅かな隙間を
永住の住処に
今年も咲いているタンポポ
ひたすら大地を這う様に
葉を広げて生きている

どこか似ている
私もタンポポ

ふるさとを離れて此処に住みついて
幾十年 この街で知りあった
沢山の温かい人々の心を頂き
この街に吹かれ
街の色に染まりながら
広い大空の下で
人生の積木を積みながら
いつの間にか 白髪の似合う
そんな年齢
私もタンポポ

◎選評 斎藤正敏

何処から運ばれてきたのでしょうか。僅かな隙間を永住の住処にして生きているタンポポ。タンポポの生命力に感心しながら、考えてみると自分も何処か似ている。歩んできた自身の人生をタンポポの生き方に重ねる作者。

●偶数月は「俳句・短歌・川柳」を、奇数月は「詩」を掲載しています。

●投稿は楷書でお願いします。作品・氏名にふりがなをふってください。

※俳句、短歌、川柳の原稿送付先

〒297-8511 茂原市道表1番地 茂原市役所秘書広報課宛「文芸コーナー」と朱書きしてください。

